**「規模過大」見直しを　松阪市観光交流拠点施設　別館で市長に意見書**

【松阪】「長谷川家文化財専門委員会」（五人）の菅原洋一委員長らは十日、松阪市役所で同市が旧長谷川邸（同市魚町）隣で建設を予定している観光交流拠点施設別館に対する意見書を竹上真人市長に提出した。「施設の規模が過大」として見直しを求めた。

　同委員会は平成二十五年十一月、旧長谷川邸の保存管理活用計画の策定を目的に設置した。旧長谷川邸は先月、国の文化審議会が重要文化財に指定するよう答申している。

　観光交流拠点施設の建設は山中光茂前市長時代に計画された。二十七年十月の市長選で当選した竹上市長は再検討のため、二十八年度当初予算で事業費の計上を見送っている。

　意見書では、「長谷川家離れ座敷からは、松坂城石垣が望めるような眺望の計画がなされていた」と指摘し、別館が眺めの邪魔にならないように「純木造とし、高さもできるだけ低層にすることが望ましい」と注文している。

　また、「史資料の保存活用等は長谷川家内において充実を図り、別館二階の展示は抑制的に扱うべき」と提言。「本館と別館の機能分担は、ランニングコストを考慮し抜本的に再考すべき」と求めた。

　竹上市長は「ここへ来て非常に重たい意見をいただいた。二十年後のまちのグランドデザインを考える『豪商のまち松阪』中心市街地土地利用計画検討委員会で一年かけて考えていきたい」と話すとともに、「本館と別館のランニングコストはご指摘の通り、わがまちの規模で維持できるか危惧している」と漏らした。